

参考資料（厚生労働省における依存症対策報告）

依存症対策地域支援事業

「受診後の患者支援事業」

「地域連携による依存症早期発見、早期対応、
継続支援モデル事業」

R6年度実施状況

受診後の患者支援事業実施自治体(R6年度)

NO	自治体名	実施機関
1	宮城県	医療法人東北会 東北会病院
2	東京都	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
3	神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター
4	岐阜県	医療法人杏野会 各務原病院
5	静岡県、静岡市、 浜松市	医療法人十全会 聖明病院
6	静岡県、静岡市、 浜松市	医療法人社団進正会 服部病院
7	愛知県	医療法人成精会 刈谷病院
8	三重県	独立行政法人国立病院機構 榊原病院
9	三重県	三重県立こころの医療センター

東北会病院

(アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症
ギャンブル等依存症

} 入院及び外来患者

3. 専門職員の職種と主な業務

専門職員の職種：看護師、精神保健福祉士、社会福祉士、
公認心理師、作業療法士

主な業務

- ・患者、家族の個別相談業務
- ・治療、回復のための患者及び家族へのプログラムの実施
- ・自助グループ等の民間団体との連携および支援
- ・地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関との連携
- ・地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関職員を対象とした依存症に関する人材育成
- ・地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関への指導、助言

支援の内容

4. 連携している民間支援団体

A.A宮城地区委員会、特定非営利活動法人宮城県断酒会、
特定非営利活動法人仙台ダルク・グループ、仙台アディクション問題を考える会、
GA（ギャンブラーズ・アノニマス）、NA(ナルコティクス・アノニマス)、
OA（オーバーイーターズ・アノニマス）、
ACODA(機能不全家族で育った成人のアノニマス・グループ)、
LA（ラブ・アディクツ・アノニマス）、
KA（窃盗症：クレプトマニアクス・アノニマス）、
EA（感情・情緒的な問題：イモーションズ・アノニマス）、
ギャマノン（ギャンブル依存症の家族自助グループ）、CoDA（共依存：コーダ）

5. 民間支援団体との連携内容

- ・院内で民間支援団体の支援員を招いてミーティングを開催
- ・民間支援団体主催のイベントや啓発事業開催協力
- ・民間支援団体主催のイベントや啓発事業への講師派遣
- ・民間支援団体間の連携促進

6. 継続的な支援の手法や内容

- ・アルコール依存症デイケアでの継続支援及びデイケア通所者を対象とした電話等での状況確認
- ・入院中の依存症患者に院内自助グループ参加プログラムの実施および市内の自助グループ参加を奨励

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

(薬物依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

薬物依存症 入院及び外来患者

3. 専門職員の職種と主な業務

専門職員の職種：精神保健福祉士

主な業務

- ・社会資源見学ツアー(病棟でのオンラインNA開催含む)
- ・患者の個別相談業務
- ・患者へのプログラム(SMARPP)の実施
- ・自助グループ等の民間団体との連携および支援

4. 連携している民間支援団体

○DARC：八王子ダルク・オンブレジャパン・インテグレーションセンター上野・東京ダルク 等

※八王子ダルクはSMARPPにも参加。

○クリニック：アパリクリニック(デイケアの見学)

○ONA(都内2か所・オンライン1か所)

○その他、就労継続支援B型事業所やLGBTQ相談センター等とも連携。

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- ・民間支援団体の利用を検討はしているが自ら相談が難しく一人で見学に行くことに二の足を踏む患者をターゲットとし、「社会資源見学ツアー」の設定を行う。
- ・その他、個別対応が必要な場合、情報共有なども積極的に行っている。

6. 継続的な支援の手法や内容

外来、入院問わずツアー参加や個別相談希望のある患者と本事業用のメールアドレスを用いて連絡をしている。

○社会資源見学ツアーについて

外来者へは、民間支援団体とスタッフで日程調整を実施。見学希望のある患者からメールで申し込みを受け、既定日にスタッフが付き添いの上、民間支援団体へ見学に行く。

入院者へは病棟内でNAのオープンミーティングに参加できる場を設定し、希望者が参加。

【頻度】入院患者対象の病棟オンラインNAは月2回程度実施。外来患者への民間支援団体の見学ツアーは毎月3～5回程度設定。

【告知方法】民間支援団体とスタッフで日程調整し、「見学ツアー」と称して複数の民間支援団体の見学候補日をA4 1枚に情報をまとめて患者に配布。

〈外来患者〉外来主治医やSMARPPスタッフを中心に、患者へ参加提案

〈入院患者〉オンラインNAのオープンミーティングへの参加を主治医から提案

※外来者、入院者ともに状況に応じて個別で見学の付き添いや、面談、情報提供等を行う場合も有

【工夫】ツアー参加については、見学ツアーを依頼している民間支援団体とも相談の上、患者の当日申し込みもキャンセルも可能な限り対応し、患者の見学意志に柔軟に対応できるように努めている。

地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症
ギャンブル等依存症

} 入院・外来の方

3. 専門職員の職種と主な業務

精神保健福祉士 看護師 心理士

《業務》初診のインテーク面接時または入院時に面接をし、本事業の説明と県内の依存症関連施設・自助Gの資料で情報提供を行う。施設等への同行支援。各種相談支援、本人・家族を対象としたグループワーク実施。

4. 連携している民間支援団体

断酒会 AA NA GA EA
横浜ダルク 川崎ダルク 相模原ダルク
湘南ダルク
横浜マック 川崎マック インダー
寿アルク BB たんぽぽ ケーギャップ
RDP横浜 ヌジュミ ブルースター横浜 等

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- ・毎週火曜日(外来70回)の薬物プログラム「SMARPP(せりがや覚せい剤依存再発防止プログラム)」に横浜DARC、川崎DARCのスタッフの参加を依頼している。
- ・「PSW講座」：1/月実施する社会資源等の紹介のプログラムに、連携している施設を招いて施設の説明をしていただいている。
- ・毎週土曜日に病棟患者に、NA、AA、断酒会らのメンバーが来院し、「メッセージ」として自助グループの説明をしていただいている。
- ・神奈川依存症ポータルサイトを運営し、回復施設や各種イベントの情報を発信している。
- ・家族会が地域で行われている現状から、地域資源につなげるための普及啓発、心理教育等に焦点をあてた家族セミナーを開催している。

6. 継続的な支援の手法や内容

入院中に自助グループや回復施設の情報提供を行い、継続的な通所を支持する。必要時には面接や体験通所に同行する。また、多職種チームで自助グループや施設への通所状況、受診状況を共有し、随時連携している。

治療プログラム

SARPP(せりがやアルコール依存再発防止プログラム)

SMARPP (せりがや覚せい剤依存症再発防止プログラム)

こいプロ (行動の依存に悩む人のためのプログラム)

7. その他

- ・SCOP(感情に焦点をあてたグループ療法)
- ・神奈川県依存症治療拠点機関等連携会議を運営している。

医療法人杏野会各務原病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル等依存症の方

3. 専門職員の職種と主な業務

職種：医師、精神保健福祉士

業務：アルコール、薬物、ギャンブル等依存症患者を対象とし、他職種と連携しながら、再発予防に努め、対象者の生活上の問題の改善や必要と考えられる社会資源の情報提供、教育助言、実践的な指導を個別性に応じて行う。

4. 連携している民間支援団体

- ・ダルク（岐阜、名古屋）
- ・デトックスセンター a i

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

- ・週に一度回復者を招いてミーティングの開催
- ・依存症治療グループ アローズ（少人数制完全クローズドミーティング）
協力者は、保健師、衛生管理者、精神保健福祉士、サービス管理責任者、相談支援専門員でかつ依存症者。
ミーティング参加者は毎日のクローズドミーティング参加を基本とする。
*クローズドミーティング：依存症者のみミーティング、支援者も依存症者に限る。
- ・施設体験、教育支援等

6. 継続的な支援の手法や内容

- ・365日のミーティングの開催（入院・外来患者の送迎、自助グループへの参加）
- ・教育活動（事前教育ベクトル（個別））
- ・家族教室（事前教育ステップス 少年鑑別所で月2回）
- ・拘置所内での短時間教育 ベクトル
- ・イベントの参加（宿泊等）
- ・ユーチューブ等のネット教育・ライングループでの対応等

※初期1年はミーティングへの参加を継続していただくことで、依存行為を脱し、1年を目安として就労支援も行う。利用期間は原則2年。

医療法人十全会聖明病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

聖明病院受診後（退院後通院者含む）の依存症患者及び家族。

3. 専門職員の職種と主な業務

精神保健福祉士・公認心理師・院内自助グループ担当職員

- ・退院後依存症患者並びに家族・県断酒会を招き、入院中の患者と病院職員で定例会の開催。職員は、企画・連絡調整・設営・運営を行う。
1回/月
- ・上記定例会の拡大例会として年2回、各分野の講演者による特別講演と断酒継続者（1・3・5・10年）の表彰を実施。職員業務は同上。
- ・県内の静岡ダルクによる、聖明病院会議室において退院後依存症患者・入院中の患者が参加する当事者ミーティング（ダルクメッセージ）の開催。職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。3回/月
- ・聖明病院退院後の依存症デイケア利用者に対する、依存症回復プログラム（集団認知行動療法）に静岡ダルクスタッフがファシリテーター及びアドバイザーとして参加し実施。
職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。1回/週

支援の内容

4. 連携している民間支援団体

静岡県断酒会 ・ 静岡ダルク

5. 民間支援団体との連携内容

- ・院内で県断酒会の各支部会員を招いて断酒定例会を開催
- ・院内でダルクメンバーを招いて当事者ミーティングを開催
- ・ダルクスタッフと共同して、回復プログラム（集団療法）の実施

6. 継続的な支援の手法や内容

- ・県断酒会の各支部及び県内ダルクへの連絡調整。依存症患者並びに家族の同意のもと、断酒会・ダルクへの紹介により、支援団体（自助グループ）に繋げる。
- ・当院退院後の依存症患者で断酒継続者表彰のための連絡により現況確認。
- ・電話等で生活状況を確認。
- ・定期的にデイケア時の面接等で生活状況を確認。

医療法人社団進正会 服部病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル等依存症の患者及び家族（入院・外来）

3. 専門職員の職種と主な業務

医師・看護師・精神保健福祉士・公認心理師
クリニカルパスを柱に依存症の援助（治療）を行っている。

・ 集団精神療法（グループワーク）の運営（Dr, Psw, Cp）

・ 家族会・家族教室の実施（Dr, Ns, Psw）

・ 院内他職種カンファレンス

・ 入院時より患者担当制（Psw）

日常生活や外出泊の相談、家族との調整、自助Gの案内等を行っている。

4. 連携している民間支援団体

断酒会、AA、GA、NA、ダルク

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

・ 服部病院断酒回窓会…当院の退院者を対象として年1回回窓会を開催。依存症に関する講演会や本人・家族の体験発表等を実施。

・ 断酒会員と話そう会…毎月第4土曜日10:30～開催。断酒会員から回復のプロセスを聞き、学ぶ機会とする。入院・外来患者、家族等誰でも参加可能。

・ 院内例会…アルコール依存症のミーティング。毎週金曜日19:00～21:00
支援対象者に回復者（自助Gメンバー）の体験談を聞く場面として開催。
入院・外来・自助Gメンバー等自由に参加可能。

・ サクセス（院内呼称）…薬物依存症のミーティング。毎週金曜日19:00～20:00
入院・外来患者・NA・ダルクのメンバー等自由に参加可能。

・ GA…GAが主催するギャンブルミーティングに当院で会場を提供。

6. 継続的な支援の手法や内容

・ 院内依存症プログラム…入院中、デイケア通所中の患者にプログラムを実施。自助Gへの参加を促し、体験談を聞く機会や回復者のイメージを持ってもらえるよう支援。

・ 服部病院断酒回窓会…往復はがきで参加の有無と現状の確認を実施。

・ 総合病院での研修…近隣の総合病院でスタッフ向けの研修を実施。依存症患者の早期発見・介入、専門医療機関や自助Gに繋ぐことを目的とした啓発活動。

・ その他…酒無し忘年会、自助グループ例会、記念大会などに当院の専門職も参加し、断酒継続の確認や回復と再発などの相談を実施。家族の集いに参加し、家族支援も実施。

医療法人成精会 刈谷病院

(アルコール健康障害、薬物依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月
(平成30年11月より継続して実施)

2. 支援対象者

アルコール依存症の外来および入院患者の中で、説明書面を交付し、患者本人の同意が得られた者

3. 支援の手法

SBIRTS (Screening : スクリーニング、Brief Intervention : 簡易介入、Referral to Treatment & Self-help groups : 専門治療と自助グループへの紹介) を用いた支援

4. 専門職員の職種と主な役割

医師

- ・アルコール依存症の外来および入院患者に、依存症から回復するためには、民間支援団体(自助グループ)による継続的な支援が必要であることを説明し、電話により自助グループにつなぐSBIRTSを行う
- ・看護師と共に、患者の相談業務や事後調査を実施

精神保健福祉士

- ・医師、看護師と共に患者の相談業務を実施

看護師

- ・医師と共に患者の相談業務や事後調査を実施
- ・SBIRTSを行った患者のデータ管理
- ・民間支援団体を訪問し連携を図ると共に、支援対象者の状況確認を実施
- ・行政等関係機関との連絡調整

5. 連携している民間支援団体

愛知県断酒連合会、AA愛知支部、三河ダルク

支援の内容

6. 民間支援団体との連携内容

- 対象者(場合によってはその家族)に対し直接断酒会員から断酒会の案内を行い、例会参加につなげる

<手法>

- ①診察場面で医師が断酒会の説明をし、同意が得られた患者に同意書を渡し、その旨をカルテに記載する
 - ②外来看護師が直接断酒会員(県内に11名)に連絡を入れ、医師が患者の状況を説明する
 - ③患者本人及び家族が電話で直接断酒会員と話をする
 - ④電話終了後に医師または看護師が、断酒会員より状況を聞きカルテに記入する
 - ⑤看護師は患者が希望する断酒会例会場の地域を確認し案内、例会予定表、院内で作成した例会場案内、各断酒会が作成した案内はがきを渡す
 - ⑥再来診察時に定期的に事後調査を行ない、必要時は民間団体に連絡する
- ※アルコールリハビリテーションプログラム(以下,ARP)入院時は、退院直前に病棟で同内容のSBIRTSを行なう
- 院内外で民間支援団体の支援員とミーティングを開催する
 - 民間支援団体が開催する家族教室や講演会等に講師として参加するなど、民間支援団体との協力・連携強化を図る

7. 継続的な支援の手法や内容

- 対象者の治療の継続状況・再飲酒の状況・自助グループの参加状況を確認し状況に応じ介入及びサポートを行う。必要に応じて自助グループ等の民間支援団体と連携し支援していく

<手法>

- ・対象者の状況(断酒会への参加状況や生活状況、困りごと等)については、対象者の受診時に直接、または電話によって、医師または看護師等が確認し、必要に応じて助言等を行う
- ・対象者に直接確認できないなど、状況によっては当院から断酒会へ直接確認する

独立行政法人国立病院機構榊原病院 (アルコール依存症・ギャンブル等依存症・薬物依存症の治療拠点機関)

三重県立こころの医療センター (アルコール依存症・ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年6月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症、ギャンブル等依存症、薬物依存症の方
(入院・外来とも)

3. 専門職員の職種と主な業務

職種：精神科医、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、
作業療法士

業務：当事業の責任者として受診後支援コーディネーター
を配置し以下の業務を行う。

- ・主治医の指示のもと、面接などにより、自助グループへの参加の動機づけ
- ・自助グループの連絡調整
- ・自助グループミーティング等への参加支援
- ・患者支援にあたり、院内多職種でのカンファレンス実施
- ・自助グループミーティング等への参加が困難となった者への断酒等継続にかかる支援
- ・受診後支援体制の検証と報告
- ・普及啓発、情報発信、研修

4. 連携している民間支援団体

三重断酒新生会、三重ダルク、AA、GA
ギャンブル依存症問題を考える会 など

支援の内容

5. 民間支援団体との連携内容

入院、外来患者において、自助グループへの紹介が適切と思われる患者について、医師の指示のもと、自助グループを紹介。

自助グループは、電話、病院への訪問等により、当該患者と面接や自助グループへの参加支援を行う。事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携を図りながら、自助グループに協力を求め、連携して支援を行う。

6. 継続的な支援の手法や内容

事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携をとり、自助グループ紹介患者が、継続して自助グループに参加し回復できるよう支援を行う。

また、自助グループへの参加が継続できなかった者について、外来受診時などに面接を行うなどして、本人の気持ちに寄り添った支援を行う。

事業実施医療機関は、自助グループへの参加が継続できなかった事由やその課題について、自助グループと協議を行うとともに、必要に応じ、治療拠点機関・専門医療機関連携会議の場などで協議を行う。

7. その他

自助グループが開催する記念大会や啓発フォーラムにおいて、治療拠点機関が講演を行っている。また、治療拠点機関が行う啓発セミナーにおいては、自助グループが講演を行うなど協働して取り組んでいる。

地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業実施自治体(R6年度)

NO	自治体名	実施機関
1	神奈川県	学校法人北里研究所 北里大学病院
2	京都府	安東医院
3	大阪府	大阪府(健康医療部保健医療室地域保健課)
4	大阪府	社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
5	大阪府	学校法人関西医科大学 関西医科大学総合医療センター
6	奈良県	中和保健所
7	広島県	医療法人せのがわ 瀬野川病院
8	広島県	医療法人せのがわ よこがわ駅前クリニック
9	広島県	医療法人正雄会 呉みどりヶ丘病院
10	佐賀県	佐賀県精神保健福祉センター
11	沖縄県	医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院
12	沖縄県	沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
13	横浜市	公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター

学校法人北里研究所 北里大学病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症（すべて外来の方）

3. 配置する職員の職種と主な業務

医師・・・診療（外来・病棟）

公認心理師、臨床心理士・・・心理検査、心理面接、集団療法

作業療法士、看護師・・・集団療法

社会福祉士・・・生活支援、院内連携、多機関連携

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

(北里大学病院)

・消化器内科との連携システムを構築し、飲酒に関連した問題が生じた者に対して、精神科や自助Gへの拒否感を示す段階の者に、消化器内科にて介入を開始できるようにしている。また、相談室や栄養部との関わりを続けることで、問題の軽減を動機づけるとともに、状況に応じて、精神科や自助Gへの関わりをもつことができる機会を提供する。

・当院職員が自助G・回復施設・民間支援団体を直接紹介。

・当院職員が自助Gの参加者・回復施設・民間支援団体に連絡し、引き合わせる。

当院職員が院内で開催されている自助Gに同伴。

(相模原DARC)

・相模原DARCに依頼し、回復施設・自助グループに案内していただく。

・当該団体の職員が毎週当院の治療プログラム方針会議に参加、また当院の医師・PSW・心理士が定期的に施設を訪れる等、患者の治療、家族支援で連携している。(AA・GA・NA)

・院内にAAを誘致しており、そこで自然にメンバーと当院患者の交流があり、地域のAAに参加するケースが多い。院内プログラムに配置されている当事者講師が地域のGA、NAにおいて中心的な立場にいるため、必要に応じて案内している。

・また、当院の治療プログラム内で、市内自助Gのメンバーのメッセージ活動を実施。(女性サポートセンターインダー)

・当院の医師・PSWが毎月行われる同施設の運営会議に参加、運営・支援方法に対して技術支援をおこなっている。必要に応じて医師・PSWが患者と共に施設に同行紹介し、橋渡しをする。

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

治療機関：教育入院の依頼、相模原DARC：家族会、
精神保健福祉センター：家族教室

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ・院内身体科向け及び地域に、依存症についてのセミナーの開催。
- ・依存症疑い患者について、当院の内科・外科等身体科や救急救命・災害医療センターから精神科に相談をもらい早期発見に努める。
- ・ギャンブル依存症及び薬物依存症に関しては、定期的に行政へ専門医の派遣を行っている。

○具体的な連携手法・内容

- ・精神科と、消化器内科の医師・看護師、相談室、栄養部で月に1回以上、連携会議を設け、介入方法・連携方法について議論をする。
- ・その中で、消化器内科・栄養部での依存症に対する介入を開始し、それについて精神科がスーパーバイズする。
- ・消化器内科にて、AUDITによりアルコール依存のスクリーニングを行い、早期発見につなげる。
- ・生活支援が必要な者や、精神的な問題がある者に関しては、相談室において社会福祉士が相談を受け、そのなかで、精神科や自助Gへの参加動機を高める。このことで、精神科・自助Gへの参加ができない患者を排除しない介入を実施している。
- ・当院他科の外来・入院患者に対して連携を強化する（リエゾン介入等を行う）。
- ・各依存症について普及啓発のためのリーフレットを作成し、患者へ配布する。
- ・院内の他科・他職種、県民、患者家族、近隣医療機関スタッフ、行政機関職員等への研修会・勉強会を開催し啓発並びに広報活動に務める。
- ・専門医が、行政の市民相談にて依存症を疑う者を発見した場合、受診や自助Gへの参加の動機づけを行う。

安東医院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

依存症の当事者や家族

3. 配置する職員の職種と主な業務

医師・精神保健福祉士・事業の企画・運営

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

安東医院、京都協立病院、京都府断酒会、保健所、市役所等

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

いわくら病院：依存症専門医療機関

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

〔アルコール依存症〕

・依存症専門医療機関医師の内科医師などへのコンサルテーション

・アルコール依存症支援に関する連携体制の強化

・専門医療機関医師等によるオンライン相談の実施

〔ギャンブル等依存症〕

・ギャンブル等依存症に係る啓発資材の作成

○具体的な連携手法・内容

〔アルコール依存症〕

・依存症専門医療機関の医師等が内科などへの医師等に直接コンサルテーションが行えるように派遣調整等（医療機関（派遣元・派遣先）のマッチング、日程調整、日報管理、謝金支払い、フォローアップ、報告会）を行う。

・医療機関が少ない地域においてアルコール依存症の人が早期発見・早期支援につながるために、地域の支援者（制度上の支援機関や断酒会等の自助団体）が繋がり、地域課題等を話し合い、関係を構築する。構築されたネットワークでアルコール依存における地域課題を解決するための体制作りを行う。

・精神科と他科との連携強化のため、医療機関職員等を対象としたアルコール専門医療機関医師等によるオンライン相談を実施する。

〔ギャンブル等依存症〕

・ギャンブル等依存症に係る啓発資材の作成

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

※行政セクションであるため、研修等対象機関を記載します。
医療機関、相談機関等（アルコール依存症の疑いがある人が関係機関へつながりやすくなることを支援）

3. 配置する職員の職種と主な業務

医師（研修会での講演、簡易介入マニュアルへのご助言等）
行政職員（研修の調整、簡易介入マニュアルの作成・周知等）

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

※実際の当事者・ご家族の方等への支援は、こころの健康総合センター、保健所等で実施（精神科医療機関、依存症専門医療機関、保健センター、市役所各種相談窓口、自助グループ、回復支援施設等と連携）

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

※実際の当事者・ご家族の方等への支援は、こころの健康総合センター、保健所等で実施（身体科医療機関、精神科医療機関、依存症専門医療機関、保健所、市役所各種相談窓口、自助グループ、回復支援施設等と連携）

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- 平成30年度に作成した「大阪府 アルコール関連問題のある人への簡易介入マニュアル」について、令和6年2月に厚労省において作成された「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を踏まえ、改訂。
- 地域のかかりつけ医や医療支援・相談支援に携わる関係機関職員等を対象に簡易介入マニュアルの普及を図ることを目的として研修会を開催（参加者：92名）。

○具体的な連携手法・内容

- 医療機関や相談機関は、アルコール依存症の疑いがある方が受診・相談に来た際、研修会にて普及したマニュアルを活用しながら、簡易介入を行い、必要に応じて精神科や専門医療機関等へのつなぎを実施。

<参考> 大阪府 アルコール関連問題のある人への簡易介入マニュアルについて



SBIRTSに沿って簡易介入の方法を記載
【主な掲載内容】

- アルコールによる身体への影響について
- AUDIT
- スクリーニングと支援方法についてのフローチャート（減酒、断酒、自助グループへの紹介等）
- ICD-10、CAGE
- アルコール依存症の疑いがある人を専門医療機関につなげる際のQA
- 依存症専門医療機関や相談機関の情報

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症の疑いがある人

3. 配置する職員の職種と主な業務

医師（消化器内科医）、精神保健福祉士、看護師、事務員等

【業務】

スクリーニングテストの実施、依存症専門医療機関へのつなぎ、心理教育、支援対象者のデータ収集等

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

自院の消化器内科、依存症専門医療機関、保健所 等

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

自院の内科・外科、依存症専門医療機関、保健所、市町村福祉部門等

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

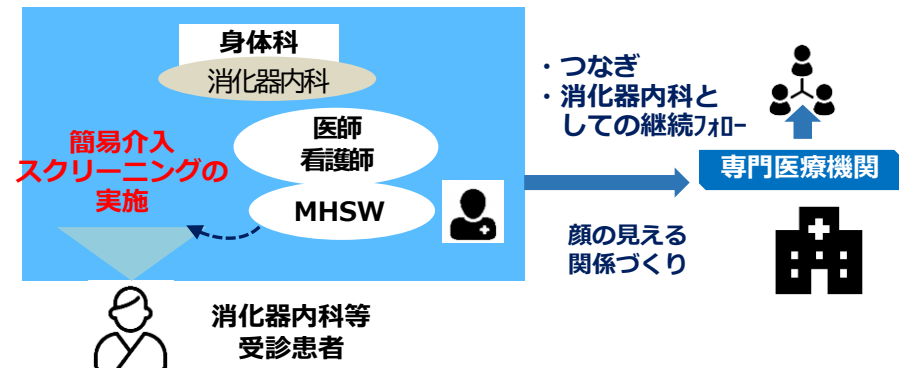
○早期発見の方法・内容

- ・消化器内科を受診した患者や救急で運ばれてきた入院患者等について、まずはアルコールの問題以外に原因があるかを精査。
- ・そのうえで、アルコールの問題が疑われる場合、スクリーニングテスト（AUDIT）を実施。



○具体的な連携手法・内容

- ・スクリーニングテストの結果、アルコール依存症が疑われる場合は、依存症治療について説明。
- ・患者本人が依存症専門医療機関への紹介を希望する場合、つなぎを実施。
- ・依存症専門医療機関において、治療中の場合であっても、消化器内科としてのフォローは継続。
- ・アルコールの支援対象者に応じ、自助グループなどとのつながりや治療の継続と、飲酒の頻度の関係等についてデータを取得。
- ・依存症専門医療機関とWEBで情報交換（2025.2月より開始予定）



学校法人関西医科大学 関西医科大学総合医療センター

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症の疑いがある人

3. 配置する職員の職種と主な業務

医師（消化器肝臓内科医、精神科医）、精神保健福祉士、看護師、事務員等

【業務】

スクリーニングテストの実施、動画視聴の案内、自院の精神科や依存症専門医療機関へのつなぎ、心理教育、支援対象者のデータ収集等

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

自院の消化器肝臓内科及び精神科、依存症専門医療機関、保健所、市役所各種相談窓口等

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

自院の内科・外科・救急・精神科等、依存症専門医療機関、保健所、市町村福祉部門、自助グループ 等

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

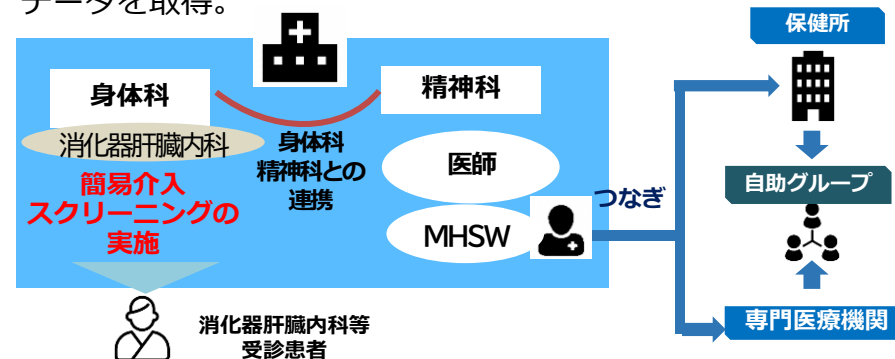
○早期発見の方法・内容

- ・自院のホームページや掲示板において、本事業についての広報を実施。
- ・消化器肝臓内科の外来受付で初診患者全員に対し、問診票と併せてAUDITのシートを配布。
- ・診察の際、消化器肝臓内科医よりAUDITの結果を説明し15点以上の患者及び希望者には動画の視聴を案内。
- ・動画では、消化器肝臓内科医及び精神科医が、アルコール健康障がいや依存症、自助グループ等について解説。



○具体的な連携手法・内容

- ・動画視聴希望者には本モデル事業にかかる同意書を配布。患者本人が希望する場合、自院の精神科外来受診または精神科ソーシャルワーカー相談を予約。
- ・自院の精神科から、必要に応じて、依存症専門医療機関や自助グループ等へのつなぎを実施。
- ・アルコールの支援対象者に応じ、自助グループなどとのつながりや治療の継続と、飲酒の頻度の関係等についてデータを取得。



中和保健所

(アルコール健康障害、薬物依存症相談拠点)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

商工会議所の定期健康診断受診者（働き盛り世代をターゲットに）

3. 配置する職員の職種と主な業務

<職種>

保健師、精神保健福祉士

<主な業務>

- ・商工会議所、医療機関、市町村との連絡調整
- ・アルコール健康障害について県民へ啓発（新聞掲載）
- ・健診場面におけるスクリーニング（AUDIT）とブリーフインターベンションの実施。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

商工会議所、アルコール専門医療機関、内科医療機関、市町村、断酒会

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

依存症の家族を把握し、アルコール専門医療機関への支援につないだ。

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ・アルコール健康障害の相談窓口・アルコール専門医療機関の情報を新聞に掲載
- ・内科医療機関や相談窓口にアルコール健康障害の啓発リーフレット配置を依頼
- ・働き盛り世代のアルコール健康障害の予防・早期発見のため、商工会議所の定期健康診断の場面でスクリーニング（AUDIT）を実施。

○具体的な連携手法・内容

- ・AUDITの結果、7点以下の人に生活習慣病予防の啓発、8点以上の人に減酒支援、15点以上に人に専門医療機関の情報提供を行う。
- ・減酒指導対象者に定期的にLINEによるフォローアップを行う。
- ・商工会議所の定期健診利用の事業所に事後アンケートを行い、事業所におけるアルコール健康障害の認識を高めた。

- ・本事業外ではあるが「アルコール健康障害対策セミナー」を開催し、アルコール専門医療機関、内科医療機関、行政相談機関、地域支援者等の連携構築を図った。

医療法人せのがわ 瀬野川病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年6月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症 等

3. 配置する職員の職種と主な業務

○精神科医

精神科救急医療施設等や総合病院と定期的に情報交換し支援機関からの受診相談に応じ、依存症の治療および受診継続支援および自助グループの紹介を行う。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

瀬野川病院、よこがわ駅前クリニック、広島大学病院精神科、県立広島病院精神科、広島市民病院精神科、安佐市民病院精神科、マツダ病院、安芸市民病院、済生会広島病院、県立広島病院、JR広島病院、広島ひきこもり相談支援センター（中部・北部）、広島県精神科救急情報センター、広島県こころの電話相談、アルコール健康障害サポート医等

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

瀬野川病院、よこがわ駅前クリニック、広島大学病院精神科、県立広島病院精神科、広島市民病院精神科、安佐市民病院精神科、マツダ病院、安芸市民病院、済生会広島病院、県立広島病院、JR広島病院、広島ひきこもり相談支援センター（中部・北部）、広島県精神科救急情報センター、広島県こころの電話相談、訪問看護ステーション、広島県断酒会、AA広島、広島MAC、広島DARC、ギャンブル依存症問題を考える会、GA広島、GAゆめ西広島、KA広島、アルコール健康障害サポート医等

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ①精神科救急医療施設等に年に2回程度の診療状況を報告し、後方支援としての役割を果たす。
- ②総合病院との定例会議のなかで、総合病院での対応困難事例を早期に抽出し、依存症の可能性をスクリーニングする。
- ③相談施設での電話相談の中から、依存症関連問題のある相談者をスクリーニングする。
- ④研修会に参加した者にAUDITやSOGS等のスクリーニングテストを施行する。
- ⑤アルコール健康障害サポート医等を養成し、早期発見と初期対応と依存症専門医療機関への紹介を促す。
- ⑥新規でギャンブル等依存症支援ドクター養成研修会を発足し、エビデンスに基づいた情報の発信、ギャンブル等依存症治療に必要な知識や考え方について理解を深め、さまざまな観点から新しい知見を見出すヒントを提供する。

○具体的な連携手法・内容

- ①精神科救急医療施設等に依存症専門医療機関の診療状況を定期的に報告する。
- ②総合病院による月1回のネットワーク会議を開き参加する。その中で総合病院での対応困難事例の中から依存症をスクリーニングする。本人が同意したら、当該スタッフを総合病院に派遣して早期介入を行う。
- ③相談施設で電話相談を受け依存症関連問題のある相談者をスクリーニングする。相談者に依存症関連問題があり治療が必要と判断した場合は、本人の同意を得て支援施設から依存症専門医療機関に情報開示し、支援施設から受診に関する支援を実施する。
- ④依存症専門医療機関では、受診した患者の受診継続に努め、自助グループ等の紹介も行う。
- ⑤アルコール健康障害サポート医等からの紹介に対して早急に対応する。

医療法人せのがわ よこがわ駅前クリニック

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年6月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症

3. 配置する職員の職種と主な業務

職種：医師（精神科専門医、アルコール健康障害サポート医（専門））

主な業務：よこがわ駅前クリニックと広島産業保健総合支援センターと定期的な情報交換し、支援機関や事業場からの受診相談に応じ、依存症の治療および受診継続支援および自助グループの紹介を行う。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

広島産業保健総合支援センター、断酒会、AA、DARC、GA、GAMANON、全国ギャンブル依存症家族の会広島

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

広島大学病院精神科、県立広島病院精神科、広島市民病院精神科、安佐市民病院精神科

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ①広島県産業保健総合支援センターとの連携により物質依存およびプロセス依存の早期発見・早期対応・継続支援を目指す。
- ②事業場で依存症が疑われる者への早期介入を行う。
- ③産業医や産業保健スタッフに対して研修会を実施する。
- ④スクリーニングテストを実施することで早期受診に繋げる。
- ⑤依存症の復職支援を行う。

○具体的な連携手法・内容

- ①よこがわ駅前クリニックと広島産業保健総合支援センターとの間で定例会議を開き、依存症に関する情報交換をする。
- ②事業場の産業保健スタッフに依存症についての研修を実施して、早期発見を促す。
- ③産業医や産業保健スタッフに対して研修等を実施し、依存症の早期発見早期治療の協力を促す。
- ④研修会に参加した者にAUDITやSOGS等のスクリーニングテストを施行し、早期受診を促す。
- ⑤産業保健分野における両立支援を精神障害に応用し、依存症の復職支援について産業保健スタッフの理解を促す。

医療法人正雄会 呉みどりヶ丘病院

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和5年6月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール健康障害の疑いがある方

3. 配置する職員の職種と主な業務

【職種】

看護師、精神保健福祉士、作業療法士、公認心理師、歯科衛生士

【主な業務】

市民向けの健康講座においてアルコール依存症の普及啓発を行なうとともに、住民健診の場に赴き、相談ブースを設けて保健所の職員と連携し、スクリーニングテストの時点から介入を行なう。個別相談のブースにはアルコール依存症の啓発に関わる資料を展示し、飲酒習慣の見直しによるメリットを伝えるとともに、次につながる（もう健診には来たくないと思われたい）声かけをしていく。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

呉市保健所（各地区）、広島県断酒会連合会、呉みどり断酒会

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

呉市保健所（各地区）、熊野町保健所

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

住民健診時に飲酒習慣の有無によるふるい分けを行い、該当者にAUDITを実施する。

効果的なスクリーニングを行なうため、記入時にもスタッフが介入する。

○具体的な連携手法・内容

健診会場に相談ブースを設け、スクリーニングテストの結果、アルコール関連問題が疑われる人に対して、保健所および専門医療機関のスタッフが介入を行なう。住民健診の個別相談会の機会を活用して、その後の飲酒習慣（再スクリーニング）、習慣を変えたことにより改善された生活上の変化について聞き取りを行なう。

また、定期的に電話等で生活の状況を確認し、ケースにより自助グループ、専門医療機関につなぐ。

佐賀県精神保健福祉センター

(アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の相談拠点)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月
(令和2年10月より継続して実施)

2. 支援対象者

依存症問題を抱える一般県民やその家族、支援者等

3. 配置する職員の職種と主な業務

- ・ 依存症担当職員（保健師）
- ・ 依存症相談員（保健師）

【業務】

- ・ 研修会の開催、関係機関との連携、個別支援等
- ・ 依存症全般に対する電話・来所相談

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

県内内科医療機関、県・市町の健康部門、県保健福祉事務所、自助グループ、
依存症回復施設

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

(個別支援において)

市町保健師・生活保護課、県保健福祉事務所、依存症治療拠点医療機関、内科医療
機関など

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ・ 研修会などで人材育成を行い、一般科病院から当センターや専門医療機関へ紹介してもらう
- ・ 来所相談時にスクリーニングテストの用紙を配布し、相談者に記入してもらう
- ・ 電話相談時に依存症担当もしくは、依存症相談員が依存症の進行度及び、本人が抱える問題についてアセスメントを行う
- ・ 特定保健指導を行う保健師（県、市町、人間ドック実施医療機関、健診機関）を対象に、アルコール健康障害を防ぐとともに依存症が進む前にアルコールに関する有効な関わりを進めることを目的に「アルコール相談対応対応研修会」を実施していたが、今年度は、地域の相談窓口等で依存症が疑われる方を早期発見することに重点を置いた研修会を開催予定。

○具体的な連携手法・内容

- ・ 電話、来所の相談時にアセスメントを行い、依存症が疑われる人に対して冊子等を用いて自助グループや専門医療機関を紹介する。
- ・ 個別支援の同意を得た人には必要に応じ専門医療機関や自助グループと連携をとりながら継続して電話連絡や面談を行っている。
- ・ アルコール健康障害に関連する実務者（依存症治療拠点機関・依存症専門医療機関、自助グループ、回復施設、健診機関、内科医療機関等）をメンバーとした「アルコール健康障害対策連携会議」を開催し、出席者及びその他関連する関係機関を含めた「アルコール健康障害にかかる連携先リスト」を作成。
- ・ ギャンブル及びギャンブル等依存症に関連する実務者（依存症治療拠点医療機関、ギャンブル依存症問題を考える会、ギャンブル依存症家族の会、弁護士会、運営者、消費生活センター、佐賀大学、市町等）をメンバーとした「ギャンブル等依存症対策連携会議」を開催し、出席者による「ギャンブル等依存症にかかる連携先リスト」を作成。

医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院

(アルコール健康障害の治療拠点病院、アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関)

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

アルコール依存症

3. 配置する職員の職種と主な業務

精神科医師

(主な業務)

- ・ 総合病院へ月に2日出張し、アルコールリエゾン診療を行う
- ・ 主治医等からコンサルトのあった方や自ら受診された方に対し診療としてSBI RTSを行う
- ・ 必要に応じて電話や映像を用いた通話により、依存症者と自助グループ会員が会話できる機会を作り、適切な治療や支援に結び付ける。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

沖縄県立中部病院・中頭病院・中部徳洲会病院

沖縄県立総合精神保健福祉センター・沖縄県中部保健所

沖縄県断酒会・AA九州・沖縄セントラルオフィス

沖縄ダルク・琉球GAIA

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

琉球病院、沖縄県立中部病院、中部徳洲会病院、中頭病院、中部協同病院

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

アルコール依存症が疑われた総合病院外来患者、および入院患者に対して、面接してスクリーニングテスト(AUDIT)を行う。

○具体的な連携手法・内容

スクリーニングテストの結果、リスクの高い飲酒習慣を有する方には簡易介入を行い、依存症が疑われる方には専門医療機関を紹介する。総合病院で面接したスタッフが専門医療機関で引き続き担当することができることや、すぐに受診調整を行うことができるメリットを生かし、専門医療機関での治療に結び付ける。

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

総合病院の身体科医師がアルコール依存症を疑った入院患者・救急部頻回受診患者

3. 配置する職員の職種と主な業務

<職種> 医師(精神保健指定医・精神科リエゾン専門医)

<主な業務>

- ・主治医等からコンサルトされた入院患者・救急部頻回受診患者に対して、診療としてSBIRTSを行う。
- ・前期研修医むけの講義や院内マニュアル整備などの啓発活動を行い、「アルコール問題を抱える患者さんを拾う眼と構え」の醸成を行う。
- ・必要に応じて電話や映像を用いた通話により、依存症者と自助グループ会員が会話できる機会を作り、適切な支援に結び付ける。

4. 早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

- ・ALPSセンター・琉球ガイア(通所ARP(最大週6日)の実施 家族相談の実施)
- ・おきなわASK(webによる自助ミーティング実施 家族相談の実施)
- ・県立精神保健福祉センター(通所ARP(週1日)の実施)
- ・専門医療機関(入院ARP・通院ARPの実施 家族教室・家族相談の実施)
 - 糸満晴明病院
 - 国立病院機構琉球病院
 - 南山病院
 - 沖縄リハビリテーションセンター病院
 - 博愛病院

5. 合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

- ・沖縄協同病院(二次救急告示病院(院内連携))
- ・那覇パーソナル・サポート・センター(ホームレス患者・無保険患者などの生活再建支援)
- ・那覇市保護課(生活保護開始および適正な実施による生活再建支援)

支援の内容

6. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

アルコール依存症が疑われた総合病院入院患者・救急部頻回受診患者に対して、面接してスクリーニングテスト(AUDIT)を行う。

○具体的な連携手法・内容

患者のAUDIT得点プロフィールおよび退院後の生活環境に応じて、ハイリスク飲酒者にはBIを実施し、依存症者には飲酒行動の是正を主眼とした専門治療への導入ないし情報提供を行う。患者が専門治療を希望する際は、治療の継続性を重視して減酒希望の患者もフォローする。

公立大学法人横浜市立大学附属 市民総合医療センター

事業の基本情報

1. 事業期間

令和6年4月～令和7年3月

2. 支援対象者

院内でアルコール依存症が疑われる通院・入院患者

3. 配置する職員の職種と主な業務

職種：公認心理師

主な業務：

- ・当院に通院あるいは入院となった患者のうち、原疾患にアルコールの影響があると思われる方についての、情報共有・収集、ニーズ把握、直接相談
- ・院内の精神医療センターで行われている減酒外来へのつなぎ
- ・減酒外来での初期スクリーニング・アセスメントや、依存症治療の導入・実施の支援（精神科医師・専門看護師らと協働）
- ・必要と思われる患者家族に対する、自助グループや回復施設などの紹介や、各種制度案内等
- ・減酒外来につながった患者の受診後の治療状況の把握や、相談の継続、各団体・医療機関等への紹介後の、電話・面談等によるサポートの実施

4. 連携している主な関係機関・支援団体等

横浜市こころの健康相談センター	各区福祉保健センター
神奈川病院	大石クリニック
NPO法人 横浜マック	NPO法人 市民の会 寿アルク
NPO法人 あんだんて 女性サポートセンター Indah(インダー)	

支援の内容

5. 早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

- ・精神医療センター以外の他診療科に向けて、減酒外来に関する周知や広報を行う。
- ・主治医から紹介されたアルコールの問題が背景にありそうな患者への介入
- ・リエゾン介入のあった患者のうち、アルコールによる離脱症状が疑われる患者、及びアルコール多飲歴のある患者について、必要に応じて患者へのコンタクトや、診療科医師への減酒外来併診に関する情報提供を行う。
- ・減酒外来につながった方の初期スクリーニング及びアセスメントを専門看護師らと協働して実施する。

○具体的な連携手法・内容

- ・横浜市主催の連携会議への参加や、関係機関に個別に問合せを行い、支援情報の収集・一覧化・情報共有を行う。
- ・減酒外来での面接相談等を踏まえ、必要と思われる患者や家族について、上記関係機関のほか、自助グループや家族会等の紹介を行う。